

# 四半期報告書

(第110期第2四半期)

自 平成25年7月1日  
至 平成25年9月30日

堀田丸正株式会社

表 紙

第一部 企業情報

## 第1 企業の概況

## 1 主要な経営指標等の推移

## 2 事業の内容

## 第2 事業の状況

## 1 事業等のリスク

## 2 経営上の重要な契約等

### 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 ..... 3

### 第3 提出会社の状況

## 1 株式等の状況

### (1) 株式の総数等

## (2) 新株予約権等の状況

(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等

#### (4) ライツプランの内容

(5) 発行済株式総数、資本金等の推移

#### (6) 大株主の状況

#### (7) 議決権の状況

## 2 役員の状況

#### 第4 経理の状況

## 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表 ..... 9

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ..... 11

四半期連結損益計算書 ..... 11

四半期連結包括利益計算書

四半期連結貸倒引当預金等

(3) 四半期連結(バランスシート)計算書  
その他の

2 その他の

## 第二部 捷山云社の保証云社等の情報

## 〔四半期レビュー報告書〕

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月8日
【四半期会計期間】	第110期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	堀田丸正株式会社
【英訳名】	MARUSHOHOTTA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 井上 徹
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋室町四丁目1番11号
【電話番号】	(03) 3548-8121 (代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 矢部 和秀
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋室町四丁目1番11号
【電話番号】	(03) 3548-8139
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 矢部 和秀
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第109期 第2四半期連結 累計期間	第110期 第2四半期連結 累計期間	第109期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高（千円）	5,311,642	5,127,016	11,092,638
経常利益（千円）	14,861	20,798	120,481
四半期（当期）純利益又は四半期 純損失（△）（千円）	26,568	△5,031	106,145
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	23,333	8,171	125,910
純資産額（千円）	3,088,604	3,107,299	3,191,104
総資産額（千円）	6,358,639	6,098,296	6,540,652
1株当たり四半期（当期）純利益 又は四半期純損失金額（△） (円)	0.58	△0.11	2.31
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（%）	48.6	51.0	48.8
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	300,167	△117,956	478,051
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	△77,349	△344,595	△98,245
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	△76,502	93,216	△55,264
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高（千円）	690,935	501,954	869,790

回次	第109期 第2四半期連結 会計期間	第110期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	1.07	0.64

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第109期第2四半期連結累計期間及び第109期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第110期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、平成25年4月1日付で百貨店を中心に「タケオニシダ」ブランドの婦人洋品を展開している、当社連結子会社のタケオニシダ・ジャパン株式会社を吸収合併いたしました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当社は、平成25年8月21日開催の取締役会において、株式会社西田武生デザイン事務所の株式を取得し子会社化することを決議し、同日付けで株式譲渡契約を締結しました。

詳細は、「第4 経理の状況 1.四半期連結財務諸表 注記事項 (重要な後発事象)」に記載のとおりであります。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アベノミクス効果などにより円安・株高が進み景気回復の兆しが見られております。一方で、円安による輸入原材料や製品価格の高騰、消費税率の引上げなど景気減速のリスクも散見されます。

当衣料業界におきましては、株価上昇や景気回復への期待感による消費意欲の高まりはありましたが、給与所得の改善は遅れており消費動向は依然不透明な状況で推移しております。

このような事業環境のもと、当社グループの当第2四半期連結累計期間は、当社連結子会社であったタケオニシダ・ジャパン株式会社を4月に吸収合併し、管理コストの削減と資金管理の効率化を進めております。また、『タケオニシダ』の次世代を顧客とする新ブランド『LADY NISHIDA』を立上げ、8月には銀座にブランドショップを新規出店しブランドビジネスの強化を図っております。

これらの結果、売上高51億27百万円（前年同四半期比3.5%減）、営業利益は7百万円（前年同四半期比22.3%増）、経常利益は20百万円（前年同四半期比40.0%増）、四半期純損失は5百万円（前年同四半期は26百万円の四半期純利益）となりました。

セグメントの状況は、以下のとおりであります。

なお、平成25年4月1日付のグループ内の組織再編に伴い、セグメントの管理区分を見直したことにより、記載する事業セグメント区分の変更を行っております。前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

和装事業は、高額品の販売が伸長する中、百貨店4店舗を開設したもののまだ売上には寄与せず、既存店2店舗の閉鎖と店頭販売の不振により、売上高、営業利益ともに減少しました。この結果、売上高は7億98百万円（前年同四半期比8.5%減）、営業利益は24百万円（同42.4%減）となりました。

寝装事業は、取扱商品を絞込み商品アイテムを減らしたため売上高は減少しましたが、利益率の改善とコスト削減が進みセグメント利益は増加しました。この結果、売上高は3億75百万円（前年同四半期比19.4%減）、営業利益は11百万円（同12.2%増）となりました。

洋装事業は、空梅雨により春夏物は好調でしたが、その後の集中豪雨や異常な酷暑などにより対応の難しい天候となり、衣料品の消費に大きな影響を及ぼしました。また、『LADY NISHIDA』の新店舗をオープンし、ブランドビジネスの拡大も図っております。この結果、売上高は15億70百万円（前年同四半期比2.7%減）、営業利益は32百万円（同16.9%減）となりました。

宝飾・バッグ事業は、主力取引先の不振と催事販売が不調に終わり売上高、営業利益とも減少しました。この結果、売上高は59百万円（前年同四半期比11.3%減）、営業利益は4百万円（同32.0%減）となりました。

意匠撚糸事業は、国内の大手糸商、アパレルメーカーへの販売が好調を維持している結果、売上高は6億15百万円（前年同四半期比9.6%増）、営業利益は13百万円（同101.6%増）となりました。

和装小売事業は、4月度の主力催事の不調が響き売上高は減少しましたが、夏以降の催事が順調に推移し利益率は改善しました。この結果、売上高は17億7百万円（前年同四半期比1.4%減）、営業利益は38百万円（同147.0%増）となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、資金という）は、前連結会計年度末に比べ3億67百万円減少し、5億1百万円となっております。これは主に仕入債務の減少と売上債権の減少、及び固定資産の取得によるものであります。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュフローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果減少した資金は、1億17百万円（前年同期は3億円の増加）となりました。

これは主に売上債権の減少はあったものの、仕入債務の減少と法人税等の支払いによるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、3億44百万円（前年同期は77百万円の減少）となりました。

これは主に固定資産の取得と貸付による支出があったことによるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は、93百万円（前年同期は76百万円の減少）となりました。

これは主に配当金の支払はあったものの、長期借入れによる収入によるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月8日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	49,280,697	49,280,697	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	49,280,697	49,280,697	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	—	49,280,697	—	1,975,070	—	123,189

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株ヤマノホールディングス	東京都渋谷区代々木1丁目30-7	25,619	51.99
堀田丸正株	東京都中央区日本橋室町4丁目1-11	3,387	6.87
株ヤマノネットワーク	東京都渋谷区代々木1丁目30-7	1,698	3.45
柴田 守	埼玉県さいたま市	729	1.48
株三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	580	1.18
山野 彰英	東京都渋谷区	526	1.07
丸正会	東京都中央区日本橋室町4丁目1-11	493	1.00
マネックス証券株	東京都千代田区麹町2丁目4-1	358	0.73
カブドットコム証券株	東京都千代田区大手町1丁目3-2	257	0.52
日本証券金融株	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	239	0.48
計	—	33,887	68.76

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 3,386,000	—	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式
完全議決権株式 (その他)	普通株式 45,199,000	45,199	同上
単元未満株式	普通株式 695,697	—	—
発行済株式総数	49,280,697	—	—
総株主の議決権	—	45,199	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株 (議決権の数 3個) 含まれております。

②【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
堀田丸正株式会社	東京都中央区日本橋室町4丁目1番11号	3,386,000	—	3,386,000	6.87
計	—	3,386,000	—	3,386,000	6.87

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が700株(議決権の数一個)あります。なお、当該株式数は、上記①「発行済株式」の「単元未満株式」の欄の普通株式に含めています。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について双葉監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第109期連結会計年度 監査法人元和

第110期第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間 双葉監査法人

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	869,790	509,587
受取手形及び売掛金	2,136,702	1,670,279
商品及び製品	1,704,004	1,770,239
仕掛品	17,595	32,298
原材料及び貯蔵品	51,011	54,721
短期貸付金	65,764	159,293
前払費用	46,957	52,849
未収入金	20,597	17,584
預け金	9,586	581
その他	23,736	34,482
貸倒引当金	△63,600	△50,524
<b>流動資産合計</b>	<b>4,882,146</b>	<b>4,251,392</b>
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	348,141	606,602
無形固定資産		
のれん	342,168	288,975
その他	47,993	43,692
<b>無形固定資産合計</b>	<b>390,161</b>	<b>332,668</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	102,054	113,458
長期貸付金	253,238	202,474
破産更生債権等	118,083	117,738
長期前払費用	40,546	36,586
敷金及び保証金	365,354	372,442
その他	184,413	189,328
貸倒引当金	△143,488	△124,396
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>920,202</b>	<b>907,633</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>1,658,505</b>	<b>1,846,904</b>
<b>資産合計</b>	<b>6,540,652</b>	<b>6,098,296</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	2,320,921	1,816,124
短期借入金	180,000	142,000
1年内返済予定の長期借入金	15,360	63,120
未払法人税等	57,791	25,632
未払消費税等	38,013	35,686
賞与引当金	13,600	3,000
返品調整引当金	15,139	10,557
その他	595,124	602,109
<b>流動負債合計</b>	<b>3,235,950</b>	<b>2,698,230</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	16,480	191,040
長期未払金	46,973	43,660
繰延税金負債	9,021	13,461
資産除去債務	24,100	28,604
その他	17,021	16,000
<b>固定負債合計</b>	<b>113,597</b>	<b>292,766</b>
<b>負債合計</b>	<b>3,349,547</b>	<b>2,990,997</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,975,070	1,975,070
資本剰余金	273,652	273,652
利益剰余金	1,104,502	1,007,676
自己株式	△188,332	△188,513
<b>株主資本合計</b>	<b>3,164,892</b>	<b>3,067,885</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	22,868	28,954
為替換算調整勘定	3,343	10,459
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>26,211</b>	<b>39,414</b>
<b>純資産合計</b>	<b>3,191,104</b>	<b>3,107,299</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>6,540,652</b>	<b>6,098,296</b>

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	5,311,642	5,127,016
売上原価	3,063,828	2,957,694
売上総利益	2,247,813	2,169,322
販売費及び一般管理費	※ 2,241,621	※ 2,161,748
営業利益	6,192	7,573
営業外収益		
受取利息	4,869	4,703
受取配当金	1,154	1,391
受取賃貸料	5,390	6,067
為替差益	—	5,240
その他	6,280	6,002
営業外収益合計	17,695	23,405
営業外費用		
支払利息	2,865	2,975
手形売却損	957	1,347
賃貸費用	2,631	3,181
為替差損	647	—
その他	1,923	2,676
営業外費用合計	9,026	10,180
経常利益	14,861	20,798
特別利益		
貸倒引当金戻入額	61,105	—
固定資産売却益	135	—
その他	209	741
特別利益合計	61,450	741
特別損失		
有形固定資産除却損	1,147	425
店舗閉鎖損失	5,409	502
貯蔵品売却損	9,003	—
減損損失	183	1,373
その他	3,869	3,789
特別損失合計	19,612	6,090
税金等調整前四半期純利益	56,699	15,449
法人税、住民税及び事業税	30,131	20,480
法人税等合計	30,131	20,480
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 (△)	26,568	△5,031
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	26,568	△5,031

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	26,568	△5,031
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,007	6,086
為替換算調整勘定	772	7,116
その他の包括利益合計	△3,234	13,202
四半期包括利益	23,333	8,171
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23,333	8,171

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	56,699	15,449
減価償却費	22,526	15,996
のれん償却額	53,192	53,192
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△242,395	△32,168
賞与引当金の増減額（△は減少）	△6,450	△10,600
返品調整引当金の増減額（△は減少）	△8,748	△4,582
受取利息及び受取配当金	△6,024	△6,095
支払利息	2,865	2,975
有形固定資産除却損	—	425
減損損失	—	1,373
売上債権の増減額（△は増加）	386,998	480,367
たな卸資産の増減額（△は増加）	△7,422	△75,035
仕入債務の増減額（△は減少）	△144,184	△522,801
長期未払金の増減額（△は減少）	△8,481	△3,313
その他	218,680	16,850
小計	317,255	△67,966
利息及び配当金の受取額	6,024	6,095
利息の支払額	△2,723	△3,342
法人税等の支払額	△20,389	△52,742
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>300,167</b>	<b>△117,956</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
担保預金の増減額（△は増加）	19,413	△7,632
有形固定資産の取得による支出	△14,030	△266,766
有形固定資産の売却による収入	6,914	—
無形固定資産の取得による支出	△7,050	△1,590
投資有価証券の取得による支出	△813	△877
事業譲受による支出	△597,535	—
貸付けによる支出	△664	△94,008
貸付金の回収による収入	512,967	33,138
敷金の差入による支出	△17,977	△12,271
敷金の回収による収入	21,426	5,412
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△77,349</b>	<b>△344,595</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（△は減少）	3,000	△38,000
長期借入れによる収入	—	230,000
長期借入金の返済による支出	△34,080	△7,680
自己株式の取得による支出	△95	△181
配当金の支払額	△45,326	△90,922
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△76,502</b>	<b>93,216</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	167	1,500
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	146,483	△367,835
現金及び現金同等物の期首残高	544,451	869,790
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 690,935	※ 501,954

**【注記事項】**

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
--

(連結の範囲の重要な変更)

前連結会計年度末において連結子会社でありましたタケオニシダ・ジャパン株式会社は、平成25年4月1日付で当社が吸収合併したため、第1四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

**1. 債務保証**

連結会社以外の会社等の金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
協同組合東京ベ・マルシェ (借入債務)	31,840千円	124,160千円

**2. 手形割引高及び裏書譲渡高**

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形割引高	37,194千円	34,744千円
受取手形裏書譲渡高	11,099	25,268

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうちの主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
給与・賞与及び手当	958,595千円	904,980千円
運賃荷造費	106,621	103,234
賃借料	231,797	229,961
賞与引当金繰入額	4,600	2,410
貸倒引当金繰入額	7,749	△5,317

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	690,935千円	509,587千円
担保に供している預金	-	△7,632
現金及び現金同等物	690,935	501,954

## (株主資本等関係)

## I 前第2四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

## 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月16日 取締役会	普通株式	45,900	1.0	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

## II 当第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

## 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月15日 取締役会	普通株式	91,794	2.0	平成25年3月31日	平成25年6月25日	利益剰余金

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント							その他 (注)1 (千円)	合計 (千円)	調整額 (注)2 (千円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 (千円)
	和装事業 (千円)	寝装事業 (千円)	洋装事業 (千円)	宝飾・パッジ事業 (千円)	意匠撲糸事業 (千円)	和装小売事業 (千円)	計 (千円)				
売上高											
(1) 外部顧客に対する売上高	872,063	466,140	1,613,022	67,436	561,497	1,731,482	5,311,642	—	5,311,642	—	5,311,642
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	39,959	—	—	—	—	—	39,959	1,260	41,219	△41,219	—
計	912,022	466,140	1,613,022	67,436	561,497	1,731,482	5,351,601	1,260	5,352,861	△41,219	5,311,642
セグメント利益	42,089	10,293	39,059	6,879	6,583	15,608	120,514	561	121,075	△114,883	6,192

(注) 1. 「その他」区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△114,883千円には、セグメント間取引消去2,538千円、のれん償却額15,158千円、各報告セグメントに配分していない全社費用102,263千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門経費であります。

II 当第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント							その他 (注)1 (千円)	合計 (千円)	調整額 (注)2 (千円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 (千円)
	和装事業 (千円)	寝装事業 (千円)	洋装事業 (千円)	宝飾・バ ッグ事業 (千円)	意匠撲糸 事業 (千円)	和装小売 事業 (千円)	計 (千円)				
売上高											
(1) 外部顧客に対する売上高	798,330	375,934	1,570,121	59,801	615,508	1,707,319	5,127,016	—	5,127,016	—	5,127,016
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	20,661	—	—	—	—	—	20,661	1,200	21,861	△21,861	—
計	818,991	375,934	1,570,121	59,801	615,508	1,707,319	5,147,677	1,200	5,148,877	△21,861	5,127,016
セグメント利益	24,259	11,554	32,457	4,681	13,270	38,559	124,781	506	125,288	△117,714	7,573

(注) 1. 「その他」区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△117,714千円には、セグメント間取引消去406千円、のれん償却額15,158千円、各報告セグメントに配分していない全社費用102,150千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門経費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

和装小売事業において、営業活動から生じる損益が継続してマイナスである和装小売店舗3店を対象に減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は当第2四半期連結累計期間においては1,373千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、グループ内での事業再編に伴い、従来「洋装事業」に区分していた洋装小売部門を「和装小売事業」へ移管し業績管理区分の見直しを行ったため、事業セグメントの区分を変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月 30 日)
1 株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額 (△)	0円58銭	△0円11銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額 (△) (千円)	26,568	△5,031
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額 (△) (千円)	26,568	△5,031
普通株式の期中平均株式数 (千株)	45,899	45,895

(注) 前第 2 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当第 2 四半期連結累計期間潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、1 株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、平成25年 8 月 21 日開催の取締役会において、株式会社西田武生デザイン事務所の株式を取得し子会社化することを決議し、平成25年10月1日に同社の株式を取得いたしました。

(1) 株式取得の目的

株式会社西田武生デザイン事務所は『タケオニシダ』ブランドの企画デザインを手掛けており、ブランド商標権も管理しております。今回の株式取得は『タケオニシダ』ブランドの事業強化を行うものであり、子会社化することにより、企画デザイン機能の充実を図り、ライセンスビジネスの拡大などを行えるものと考えております。

(2) 株式取得の相手会社の名称

株式会社ジャパンヘルス＆ビューティー

(3) 株式取得する会社の概要

名称：株式会社西田武生デザイン事務所

事業内容：服飾デザイナーの指導養成及びブランドデザインの企画

資本金：23,300千円

(4) 株式取得の時期

平成25年10月 1 日

(5) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

取得株式数：200株

取得価額：10,000千円

取得後の持分比率：57.0%

(6) 支払資金の調達及び支払方法

自己資金による一括支払い

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月 8日

堀田丸正株式会社

取締役会 御中

双葉監査法人

代表社員 小泉 正明 印  
業務執行社員 公認会計士

代表社員 菅野 豊 印  
業務執行社員 公認会計士

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている堀田丸正株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、堀田丸正株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成25年8月21日開催の取締役会の決議に基づき、平成25年10月1日に株式会社西田武生デザイン事務所の株式を取得し子会社化した。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### その他の事項

会社の平成25年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成24年11月7日付けで無限定期の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成25年6月24日付けで無限定期意見を表明している。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。